

「暮らしと収納—今と比べる昔の収納具—」展



収納の問題は、今も昔も変わらず私たちの頭を悩ませます。同展では、寄贈・寄託された資料の中から、収納に関わる民具を展示しています。

右の写真は、江戸時代に登場した箱階段です。これは見た目通り階段として利用しましたが、階段下には抽斗や戸を設け、収納としても使いました。階段としての強度を持たせたいえ、収納のための抽斗などをびたりと造り込むには高い技術が必要です。また、江戸時代には2階を持つことが規制されていたため、箱階段を移動させたり、階段状の家具だと言ったりすることで、2階の存在を隠すためにも使われました。現代でも、階段下を収納やトイレなどに利用する住宅や、箱階段と似たデザインの家具を見かけることがあります。生活習慣の変化とともに暮らしの中の収納は移り変わりますが、その時代に合わせた「より良く収納したい」という思いに変わりはありません。9月7日(日)まで開催中の同展で、先人たちの収納の知恵や職人の技に触れてみてはいかがでしょうか。



小さな抽斗をたくさん備えた針箱

暮らしと収納—今と比べる昔の収納具—展



霞ヶ関・大東地区のブドウ農家23軒が集まり、栽培技術の向上を目指す川越市葡萄生産組合。今年で発足から50年を迎えました。

「巨峰栽培を始めた頃は房に十分な実が付かないこともありました」と話すのは、組合長の坂田



講師の手元を見入る農家の皆さん

川越市葡萄生産組合

霞ヶ関・大東地区のブドウ農家23軒が集まり、栽培技術の向上を目指す川越市葡萄生産組合。今年で発足から50年を迎えました。「巨峰栽培を始めた頃は房に十分な実が付かないこともありました」と話すのは、組合長の坂田次男さん(藤倉)。毎年2回の講習会や山梨・長野での研修などで技術を磨き合い、今ではどの

農家でも立派な房を付けるようになりました。近年は巨峰以外にも種なしや大粒、皮ごと食べられるものなどが人気なため、消費者のニーズに合わせた品種の栽培にも取り組んでいるそうです。

「川越のブドウはおいしいと評判が良いんです」とうれしそうに話す坂田さん。ブドウの収穫は8月下旬から9月上旬にピークを迎え、そのほとんどが農家の庭先販売だけで完売するほどの人気ぶりです。農家の情熱が詰まったみずみずしいブドウ、ぜひ味わってみませんか。

今が旬！8月の川越野菜 市内の直売所などで購入できます

キュウリ、ナス、エダマメ、ウリ、オクラ、トマト、ネギ、ゴボウ、モロヘイヤ、タマネギ、イチジク、ピーマン、ミニトマト、コマツナ、カボチャ、ゴーヤ、スイカ



伊 佐沼の東側を歩いて見ると、ヒマワリ畑を見れば、太陽に向かってまっすぐ伸びているヒマワリを見ると夏を感じ、毎日ラジオ体操やプールに通っては、たくさん汗を流した子どもの顔を思い出しました。伊佐沼のヒマワリは、8月後半に見頃を迎えるそうです。みなさんも足を運んでみてはいかがでしょうか。

編集後記

どんぐり

毎日暑い日が続いていますが、朝の涼しい時間に花開くハスを撮影しようと、伊佐沼に出かけました。朝早い時間でしたが、散歩をしたり、写真を撮ったりしている人たちにぎわっていました。